

## 会 議 録

会議の名称	平成28年度 第2回社会教育委員会議
開催日時	平成28年10月17日(月)午後3時00分～午後5時00分
開催場所	生涯学習推進センター 学習室301
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	別紙のとおり
説明者の職・氏名	
議 事	(1) 社会教育委員について (2) 本市の社会教育について (3) その他
会 議 資 料	資料1 社会教育 関係法令 資料2 社会教育委員 関係法令 資料3 社会教育委員会議について 資料4 子育てを支える「チームワーク」～家庭教育の充実を目指して～(写) 資料5 所沢市の社会教育行政 関係所属の業務内容について
担 当 部 課 名	教育長 内藤隆行、教育総務部長 美甘寿規、教育総務部次長 師岡林、スポーツ振興課長 海老沢康子、文化財保護担当参事兼文化財保護課長事務取扱 木村立彦、生涯学習推進センター所長 倉富恵理子 所沢図書館長 中村まさみ  教育総務部社会教育課 社会教育課長 安田幸雄、副主幹 橋本浩志、主査 田中和子、主査 石井のぶ江  教育総務部社会教育課 電話 04(2998)9242

## 所沢市社会教育委員会議 出席一覧

平成28年10月17日(月) 15時00分から 生涯学習推進センター学習室301

選出根拠	氏名	備考	出欠席
学校教育 関係者	岩間 健一	所沢市立小中学校校長会 (美原中学校長)	出
学校教育 関係者	原 勉	所沢市幼児教育振興協議会 (マルハ幼稚園長)	出
社会教育 関係者	藤野 邦夫	所沢市公民館運営審議会 民生委員	出
社会教育 関係者	須田 昭仁	所沢市子ども会育成会連絡協議会 副会長	出
社会教育 関係者	横田 順子	所沢市スカウト協議会 (ガールスカウト埼玉県第6団)	出
社会教育・ 家庭教育 関係者	針生 清美	柳瀬小学校図書ボランティア代表 柳瀬公民館保育スタッフ 柳瀬荘黄林閣(国重要文化財)管理人	出
社会教育 関係者	小沢 貞泰	北秋津小学校区 心豊かな子どもを育てる 学校と地域づくり連絡会議 北秋津ネット 議長	出
社会教育 関係者	小松 扶美子	所沢市連合婦人会 副会長	出
社会教育・ 家庭教育 関係者	粕谷 治彦	所沢市PTA連合会会長 (向陽中学校PTA会長)	出
社会教育・ 家庭教育 関係者	小林 ヒデ子	民生委員 人権擁護委員	出
社会教育 関係者	須藤 とく子	人権擁護委員 (元市内小学校長)	出
学識経験者	茗井 香保里	秋草学園短期大学 幼児教育学科教授	欠
学識経験者	西村 昭治	早稲田大学人間科学学術院 副学術院長	出
学識経験者	田部 真一	淑徳大学非常勤講師 (元市内小学校長)	出
学識経験者	関 直規	東洋大学文学部 教育学科准教授	出

選出根拠 = 所沢市社会教育委員会条例第2条

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
社会教育課長	<p><b>【 1 開会】</b></p>
教育長	<p><b>【 2 委嘱状の交付】</b> 出席した 14 名の社会教育委員に教育長が委嘱状を交付した。</p> <p><b>【 3 あいさつ】</b> お忙しい中、社会教育委員をお引き受けいただき、感謝を申し上げます。条例によって任期が 2 年間となっている。よろしくお願ひしたい。 社会教育委員会議は、社会教育法に基づく社会教育活動全般についてご審議いただくものである。前任期の会議では、家庭教育についてご審議いただき、審議のまとめをいただいた。これまでも様々なご意見を頂戴したが、施策に反映させるように努力しているところである。 学校だけでは、子ども達を指導することはできない。日々の家庭生活と地域での体験活動が必要になってくる。この社会教育委員会議では、大人達の社会教育と共に、子ども達を支援していく学校・家庭・地域を担う社会教育の観点が大切である。学校教育・社会教育の活性化のためにも、社会教育委員の皆様には大所高所からのご意見を願ひしたい。</p> <p>《社会教育委員、事務局が自己紹介を行った後、協議に入った。》 《改選後初回の会議のため、まず社会教育課長が進行を務めた。》</p>
社会教育課長	<p><b>【 4 議長・副議長の選任】</b> 議長・副議長については、会議規則第 2 条により委員の互選により議長 1 名、副議長 1 名を置くことになっている。委員からご推薦をいただきたいと思うが、どなたかご推薦いただけるか。</p>
委員	<p>前任期でもリーダーシップを発揮され、市内でも校長を経験され、様々な教育の課題に取り組んでこられた田部委員に、引き続きに願ひしたい。</p>
社会教育課長	<p>田部委員のご推薦をいただいたが、いかがか。</p> <p>《拍手をもって一同了承》</p>

社会教育課長	次に、副議長だが、同じようにご推薦をお願いしたい。
委員	前回は女性が務められていたが、キャリアがある小林さんをお願いしたい。
社会教育課長	副議長に小林委員のご推薦をいただいたが、いかがか。
	《拍手をもって一同了承》
	《新議長、新副議長からあいさつがあった。》
	《配布資料について、事務局より確認した。》
	《社会教育課長に代わり、議事の進行は議長が務めた。》
議長	【5 議事】(1) 社会教育委員について
	まず資料について、説明をお願いしたい。
社会教育課長	<p>社会教育と社会教育委員の職務について、時間をいただき説明させていただく。《資料1》では、社会教育法では第2条において、日本の社会教育は、いわゆる学校教育ではない組織的な活動であることと定義されている。文部科学省の定義としては、Social Educationとして定義され、地域における教育、学校外で行われる教育ということが強調されている。諸外国では、学校で教育が受けられない子どもたちへの教育や、女性の社会参加に対する教育を社会教育と捉えているということがある。「教育基本法」では、第12条に社会教育が定められており、社会教育施設の設置や利用等が定められている。</p>
	<p>次に、市町村の教育委員会の事務だが、平成18年の教育基本法の改正では、第13条において「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」が追加され、それを受けて平成20年には社会教育法の改正があり、第3条において「学校・家庭・地域の連携・協力を促進すること」が追加された。市町村の教育委員会の事務として、社会教育法の第5条に「学校の授業の終了後や休業日における学習機会の提供」「地域住民の学習成果を活用する機会の充実」、その他、7番目、10番目、16番目が追加された。このように追加されたことによって、社会教育行政に変化があったということである。所沢市教育委員会では、各所属にて社会教育分野の事務を行っている。</p>
	<p>次に、生涯学習については、平成18年に改正された教育基本法において、第3条に生涯学習の理念として追加されたものである。生涯学習は「個人の豊かな人生づくり」ということが原点となっていることに対し、社会教育は「よりよい社会づくり」ということが原点となっている。</p>

<p>社会教育課長 (続き)</p>	<p>次に《資料2》関係法令として、社会教育委員の職務等について説明させていただく。社会教育法第17条において社会教育委員の職務が定められているが、社会教育委員は会として組織されているものではなく、一人一人に委嘱をする独人制となっている。会議では議長と副議長により審議を進めていく。本市でも、社会教育委員の設置、委嘱の基準、定数等が条例で定められ、また社会教育委員会議規則では、議長・副議長の互選について定められている。</p> <p>《資料3》だが、この会議は原則公開であること、会議録については、会議終了後に委員の皆様にご確認いただき、その後議長の承認をもって確定することについて、前任期までこのような形で進めてきたところである。</p> <p>今後のスケジュールについては、以前のスケジュールに準じて例示したが、概ねの開催時期ということでご承知いただければと思う。</p> <p>その他、前任期においてはインタビューを2回、「つなぐミーティング」という、社会教育の活動をしている方々と社会教育委員との意見交換の場を設けた。</p> <p>次に、前任期の審議の流れについてだが、前任期では「家庭教育の充実について」とその前の任期より答申された「『社会教育関係団体の支援策について』の具体化について」を2本柱としてご審議いただいた。</p> <p>まず、「家庭教育の充実」についてだが、支援を必要としている方々へ支援をどうやったら届けられるのかという視点で審議が進められ、資料のとおりインタビューも行った。</p> <p>審議の結果、資料の5ページのとおり「見守る」「つながる」「学ぶ」「相談する」の4つが相互に連携し、その家庭に合った支援をしていく必要があること、そしてその全体のコーディネーターを地域の中心である公民館が担い、地域全体で「チームワーク」となって家庭を支えていくことができれば、必要な支援を家庭に届けることができるのではないかということ、また今後の方向性として、公民館を中心とした家庭教育支援のチームワークづくりや公民館ごとの特色ある地域づくりの視点を示していただいた。最終的にこの資料にまとめていただき、8月に教育長へ提出いただいた。</p> <p>「社会教育関係団体の支援策」の具体化だが、支援策の一つ「つなぐ」を実践ということで、団体同士がお互いを知り、情報交換する場である「つなぐミーティング」を開催した。今後も継続して開催した方がよいというご意見をいただいているところである。</p> <p>議事の(1)の説明は以上である。</p>
<p>議長</p>	<p>これまでの説明の中で、ご質問等はあるか。</p> <p>会議の公開と会議録の承認についても含め、資料のとおりとしてよろしいか。</p>

議長	<p>《一同了解》</p> <p><b>【5 議事】（2）本市の社会教育について</b> では議事2に移りたいと思う。説明をお願いしたい。</p>
社会教育課長	<p>本市では、生涯学習推進センター、文化財保護課、所沢図書館、スポーツ振興課、そして社会教育課において、社会教育関連の事務を行っている。生涯学習推進センターから説明させていただく。</p>
生涯学習推進センター所長	<p>生涯学習推進センターは、旧並木東小学校を改修し、平成21年4月に生涯学習の拠点施設として開設した。センターは、様々な学習講座の開催や生涯学習情報誌の発行を行う人材育成エリア、所沢の歴史や自然、文化等の調査研究を行うふるさと研究エリア、学校教育部所管である、幼児や児童生徒の教育相談等を行う教育臨床エリアの3つの機能を持っている。</p> <p>また、早稲田大学人間科学学術院の社会人対象1年制修士課程として、教育臨床コースが設置されている。</p> <p>続いて業務内容についてだが、市民の学習ニーズに応えるために市民教養セミナーなどの各種講座や市民大学、市の業務を広く知っていただくための市職員による出前講座、IT相談などを行っている。また、市民の学習支援と活動の場の創出のために、生涯学習ボランティア人材バンク運営事業を行っている。その他、生涯学習の情報提供として、生涯学習情報紙「翔びたつひろば」を発行し、市の広報紙と一緒に全戸配布している。課題としては、こういった講座等で学習した成果をどのような形で活かしていくのか、また、行政の方では地域活動を担う人材を求めているということから、講座終了後に地域で活かせるようにサポートしていきたいと考えているが、そのためにも市民活動団体とも協力や連携が必要だと考えている。</p> <p>ふるさと研究エリアでは、所沢の歴史や自然などの資料（史料）の収集や保存・調査を進め、常設展示や企画展示、市民学芸員養成講座などの講座や市内の企業や学校と連携協力している星空フェスティバルなどの体験学習を通じて、ふるさと所沢に愛着を深める事業を展開している。その他、三ヶ島葎子に関する解説会や講演会なども行っている。</p>
文化財保護担当参事	<p>文化財保護課・埋蔵文化財調査センターについては、資料のとおり主に6つの業務を行っている。</p> <p>文化財の保護についてだが、所沢市には指定文化財として、ミヤコタナゴを含めた国の指定が4件、県の指定が11件、市の指定が85件と、全部で10</p>

文化財保護担当 参事（続き）	<p>0件ある。その他、歴史的建造物などの登録有形文化財もあり、主にそれらを個人や団体が管理しているが、そのための補助金の交付や、保存や修理などについての相談や指導を行っている。</p> <p>文化財の調査と保存についてだが、これからどのようなものを指定文化財にしたよいかについて文化財保護委員会を通して調査を行ったり、指定文化財の巡察を行っている。</p> <p>文化財の活用と啓発については、文化庁の方からも問われていることではあるが、所沢市では文化財展・伝統芸能発表会の1年交代での開催、また、中富・柳瀬・山口にある民俗資料館の運営を行っている。</p> <p>土の中に埋まっている文化財である埋蔵文化財について、北野にある埋蔵文化財調査センターにて発掘調査を進めている。市内には166箇所の遺跡があり、それらに住宅の工事等で開発がある場合に調査を行っており、併せて調査報告書や年報等を作成している。</p> <p>その他、柳瀬地区にある滝の城跡の整備やミヤコタナゴの保護、歴史的建造物の復元に向けての業務を行っているところである。</p> <p>課題については、1つ目は伝統芸能の継承者育成や文化財保護活動へのさらなる支援、2つ目は個人所有が多い文化財を維持していくために、その負担を軽減させること、3つ目に文化財についてなかなか周知がなされていないため、市民意識を醸成させていくこと、4つ目に文化財の保護・保存対策について、市で基本方針を策定する時期にきているということ、5つ目に市の職員の中から専門職員の育成を図る必要があるということの5つの課題がある。</p>
所沢図書館長	<p>所沢図書館について説明させていただく。図書館は誰もが生き生きと学ぶための生涯学習を支える地域の情報拠点、また人生をより深く豊かにするための読書活動推進の拠点でありたいと願い、そのための基本理念として、所沢図書館は市民文化の創造と発展を支える地域の情報拠点であるということを掲げている。</p> <p>所沢図書館は本館、指定管理による7つの分館、松井小学校図書館、貸出しを行っている市内コンビニエンスストア7店舗でサービスネットワークを形成している。蔵書冊数はおよそ97万5千冊で、県内3番目の大きさであり、利用者は延60万人ほどである。図書館では貸出しサービスの他に、子どもの読書活動の推進、市民の皆様の疑問に応えるお手伝いをするレファレンスサービスに力を入れている。読書活動においては地域や学校と連携して活発に活動をしていることが評価され、今年度文部科学大臣より表彰を受けている。レファレンスサービスでは国立国会図書館長名で何度か感謝状をいただいております。充実したサービスとなっている。</p> <p>課題については資料のとおりだが、今図書館に求められているものは、生涯</p>

所沢図書館長 (続き)	<p>学習の成果発表の場や、子どもや高齢者の居場所づくりと言われている。高齢者層の一部や中高生など、図書館利用の少ない年齢層もあるので、今後はこういった年代の利用促進について、さらに取り組んでいきたいと考えている。</p>
スポーツ振興課長	<p>スポーツ振興課の業務として、社会体育に関すること、所沢シティマラソン大会や陸上競技選手権大会などの各種スポーツ大会等の開催、市民体育館などの社会体育施設の整備、体育協会やスポーツ少年団等の社会体育団体の育成や援助、学校体育施設の開放、学校体育に関することの6つがある。課題についてだが、1つ目の学校体育における生徒の体力向上の取り組みでは、特に心身の成長が著しい小中学生を対象に、気軽にスポーツに親しんだり、大学生や専門家などからの指導を受けることができる機会の提供を行っている。2つ目は、スポーツ活動の普及により体育施設の稼働率の上昇する一方で、利用者の増加に伴う施設の劣化に対応するため、適宜メンテナンスを行い、施設の延命化を図っている。3つ目では、とこしゃん体操普及促進活動や手軽に健やか体操教室などの事業を行っている。近年言われている健康寿命を延ばすためにも、今後さらに力を入れていきたいと考えている。</p>
社会教育課長	<p>社会教育課の業務として、1つ目に社会教育の推進として、社会教育全般に関することや職員の資質向上のための研修を行っている。2つ目に、青少年教育及び体験活動の推進として、子ども会育成事業、こどもルネサンス開催支援事業、子ども写生大会開催事業など、様々な体験活動を推進している。3つ目の家庭教育への支援だが、市内の小中学校47校で行われている家庭教育学級開設委託、子育て講座の実施、家庭教育啓発リーフレットの配布、その他市内小中学校のPTA活動の支援を行っている。4つ目の人権教育の推進だが、人権教育講座開催やリーフレットで啓発を行っている。また、外国人の日常生活での日本語力の向上と生活支援を目的として、市内の団体と共催して日本語講習会や、指導者養成研修会を開催している。5つ目の社会教育関係団体の育成・援助だが、11団体に補助金や交付金を交付して支援をしている。6つ目の公民館の総括だが、市内の公民館は11の行政区にあるまちづくりセンターの中に位置づけられており、小手指地区の分館を合わせ、全部で12館の公民館があり、順次改修工事等を行っている。また、まちづくりセンター長が公民館長を兼ね、市民部である職員が教育委員会の業務を行う「補助執行」という形で公民館の事業を行っているが、地域の課題解決や地域コミュニティの醸成を図るため、地域のニーズに即した講座の開催や、市民の皆さんと協働で企画運営した講座や文化祭などを開催している。平成27年度は全館で93万人を超える利用があった。</p> <p>課題としては、教育委員会である社会教育課と市民部であるまちづくりセン</p>



<p>社会教育課長 (続き)</p>	<p>ターの公民館との事業の協力や連携の充実、これからの所沢市の社会教育のあり方、学校教育や他部署との横断的に連携について、また、前任期の社会教育委員会議の議論を受け、家庭教育充実のために事業の見直しを図ること、さらに、以前の答申である社会教育関係団体への効果的な支援事業の展開といったことが、現在の課題である。</p> <p>社会教育行政ということで、教育委員会での担当業務の説明をさせていただいたが、社会教育活動はもっと広い範囲のものであり、例えば、児童館の活動、福祉教育、保健センターでの健康教育といったものも社会教育の活動と考えられている。そのため、市役所の内部でも広く連携する必要がある、社会教育を広範囲で捉えて考えていく必要があると考えている。</p>
<p>議長</p>	<p>生涯学習推進センターの課題 の学習の成果を活かせるサポートの工夫についての進捗状況を伺いたい。合わせて、本の中で先進的な取り組みをしていると紹介されていた市民大学の状況について、また、出前講座とはどんな人にとどのようなことを届けるものなのかを伺いたい。</p>
<p>生涯学習推進センター所長</p>	<p>学習成果のサポートの成果については、形になって表れにくいものであるが、市民大学においては、大学修了後に活動している方々や市内の市民活動支援センターより活動している方を講師として招き、地域活動を紹介してもらうことで、受講者の次の地域活動につながるようにしている。多くの方が次の活動について考えているので、サポートしていきたいと考えている。</p> <p>出前講座については、市の各部署が担当している業務内容を一覽にし、市民の方から聴講の希望があった場合に担当部署と調整し、担当部署の職員が出向き話をするというものである。</p>
<p>議長</p>	<p>他にあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>スポーツ振興課に伺いたい。課題 の「学校体育」という表現だが、社会教育の分野から考えて「市民の恒常的な体力の向上(特に学齢期)」の方がいいのではないか。また、30代から50代はメンタル的にも疲れている方が多いが、スポーツがストレス発散にとっても有効であるとアメリカで実証されている。こういったことも加味するとより広く市民参加が促進され、社会教育的な意義も含まれるのではないか。</p>
<p>スポーツ推進課長</p>	<p>まず学校体育ということだが、スポーツは幼児から高齢者まで広く市民を対象としている。その中で特に小中学生のスポーツを「学校体育」と呼んでいるところであるが、ご指摘のあった表現について検討していきたいと思う。また</p>

スポーツ推進課長（続き）	<p>もう一点のご指摘については、課として全ての方にスポーツを身近に感じてもらえるように努めているところだが、30代から50代についても体力向上に力を入れていきたいと考える。</p>
教育総務部長	<p>補足をさせていただきたい。スポーツに関しては、誰でも気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを目指したスポーツ推進計画があるが、ウォーキング大会などの事業を展開し、健康づくり支援課とも連携しながら、健康寿命をいかに延ばしていくかという取り組みを行っている。また、学校の関係については、この計画の中で所沢市の子ども達の体力を全国平均のデータと比較を行い、苦手な部分をどう克服したよいかといった等、学校教育とも連携を図りながら対応に努めている。</p>
委員	<p>郷土資料室が小・中学校にあると思うが、折角あるのに生かしきれていなかったり、そこにあるものが傷んでいるような印象がある。以前に餅つき大会を開くのに、郷土資料室にあった臼と杵を貸してほしいと学校にお願いしたところ、もう使い物にならなかったということがあったので、ぜひ学校の社会科とも連携して地域の財産を守っていただけるようお願いしたい。</p>
文化財保護担当参事	<p>市内小中学校の大体3分の1に郷土資料室がある。それらの学校では、地元の生活用具や民具などを空き教室を利用して郷土資料室としている。市内には他にも中富・柳瀬・山口に民俗資料館があり、各館4から5つほどの学校が見学に来ているが、地元の保存会の方に説明していただいたり、柳瀬では実際に脱穀機などを貸し出しして、麦を収穫してうどん作りを行っている。実際に体験することが大切だと考えているので、壊れた民具については他の物との交換や修理など、使える状態にする努力をしているところである。</p>
教育長	<p>郷土資料室に関しては学校間で格差があり、所沢小学校では大正から昭和初期の所沢の商店を再現した立派なものがあったり、一方では先ほどの話のような資料室もある。現在生涯学習推進センターでは、市民学芸員を養成しているが、その方々によって様々な活動が行われており、その中で古い民具を再生しようという活動も始まっている。先ほどの柳瀬地区の話では、保存会と柳瀬小学校が連携して、年間を通じてカリキュラムが組まれている。このように学校教育と社会教育が連携する学社連携は、学校教育法で定められているものだが、このように連携を進め、体験活動を推進していくことが重要だと思われる。</p> <p>《以上で質疑が終了した。》</p>

議長	<p>《議長より、議事全体を通じての意見を求められた。》</p> <p>任期初めての会議であるので、それぞれ社会教育の中で普段感じていることや課題だと思っていることなどお話しいただきたい。</p>
委員	<p>会議へ参加し、学校と社会教育の在り方について考える機会とさせていただいている。昨年度のインタビューの中で、各地で痛ましい事件が起こったことを受けて義務教育後が課題であろうと話したが、そういった子ども達への支援のネットワークが広がればよいと感じている。</p>
委員	<p>現在は、児童館の指定管理も行っている。30～40代の父親は平日に仕事をしていることが多いため、土日に親子で参加できる事業を開催することによって、参加してもらう機会を増やしているが、友達ができたり、親同士がつながることができる。最近では、家庭の孤立化が目立つが、親同士がつながると、子ども同士の関係が良くなるなどの効果が見られる。そういった意味で、親へのアプローチをしていくことが大切であると考えている。</p>
委員	<p>地元で三世代まつりというものを行っている。子ども達にわりばしてっぼうなど、昔の遊びを教えている。これからもこういった活動を通じて、子ども達に必要なことを教えていきたいと思っている。</p>
委員	<p>余暇の過ごし方について、いかに社会教育に関する活動が広げられるかを常に考えている。経験がないために活動をしようと思わない、30～50代が多いのではと思う。その中で、社会教育の活動をどうやったら広げたり、創り出せるのか、様々に連携することで可能性が多くあると感じているところである。</p>
委員	<p>学校とは違い、学年を超えた縦の関係の中で活動をしているが、そういったことが社会教育に繋がっていると感じた。自分達の活動を改めて大事だと感じ、会議で得たことを自分達の活動に還元できたらと考えている。</p>
委員	<p>自分の活動を通じて、毎年子ども達が変わっていくのを感じる。そんな中、子ども達のことを考えてくださっている方がこんなにもいることがありがたいと思う。ここで得た情報を周りの人に伝え、それが広がっていけばいいと思う。自分の子どもは部活動や学校行事でとても忙しく、土日はあまり予定が空いていない。そんな中、市の方で開催する大会などが入ると、さらに忙しくなる。そういった現状もあるので、一部に偏ることなく、広く市民に支援が行き届けばと思う。また、本の読み聞かせの活動の中で、自分では読めないが、読</p>

委員（続き）	<p>んであげることで面白さを知ることができる子もいる。お母さんに読んでもらったことがない子が、読んでもらって嬉しかったから自分も読んであげたいという感想をもらったりするとこちらも嬉しく思うが、こういった中で社会教育活動に貢献したいと思っている。</p>
委員	<p>社会教育に正解がある訳ではない。それぞれの方が日頃行っている活動が社会教育の活動であると思う。皆でやろうと認め合ったときに社会教育活動となったり、またはそこが始まりとして連携して発展していくこともあるのではないかと。自分の活動の中での最大の課題は、後継者をどう育てていったらよいかである。</p>
委員	<p>社会教育という言葉が身近にない中で今日の会議に参加したが、自分達の活動が社会教育にどのように関わって貢献できるのかということ、色々と考える機会になった。</p>
委員	<p>学校のPTAの中では家庭教育学級という保護者が学びあう場が設けられているが、座学だけでなく、健康についてや学校給食の試食をしたりと、様々な体験できる講座もあってとても充実したものになっている。学級に参加した保護者からは「やって良かった」という感想をいただけるが、役員を決めるときには中々手があがらない。自分もそうだったが、役員をやってみると学校や子どものことをよく知ることができて、やって良かったと感じた。苦労することもあるが、実際に顔を合わせて意見を交わしたりすることで、新しく学べたり友達が増えたという方も多い。こういったことは一般の保護者の方々には理解されていないので、多くの方に伝えることが私の役目だと思っている。</p>
委員	<p>社会教育は広くて深く、把握することの難しさを感じた。課題がどこの所属にもあるようだが、これらに一步踏み込んで具体的に施策などで考えたときに、さらに深さを感じる。先ほどからの話にあるように、社会教育の活動に参加してもらうことの難しさがあり、各個人が抱えている課題とどう織り交ぜていくのかも難しいところだと感じた。全国で社会教育が行われている中で、所沢市としての特色や課題は何かを考えたいと思う。</p>
委員	<p>大学は地域と連携していて、市とも社会教育を含んだ様々なテーマで連携していきたいと考えている。特に、健康教育、高齢者福祉などの情報提供などではお手伝いできるのではないかと。10月30日にはキャンパスで行われる人間科学と市民参加や高齢者福祉に関わるシンポジウムが行われるので、ご参加いただければと思う。</p>

副議長	<p>先日、椿峰コミュニセンターで、親子焼団子教室を行った。2・3歳児の参加が多く、自分で作ったものに大変喜んで見られた。参加した子どもに、作ったものを参加していない家族に持って帰っていいかと聞かれ、感動したことを覚えている。こんな小さい子にもきちんと家庭教育が行き届いている家庭があるということを知ったところである。</p>
議長	<p>地域を1本の木と森の木に例えることが多いが、良い地域とは、良い木がたくさん集まって良い森となることであると感じている。どんな森を造れば良い木が育つのか、一人ひとりが育つのか。朽ちかけた1本の木があるならば、どんな手立てをしてあげたら良い森の中に仲間入りできるのか、そういったことを考えている。</p>
委員	<p>今年は公民館が誕生して70年目の節目を迎える。所属している団体で、1月にシンポジウムを行った。文部省の社会教育課長の方と中央教育審議会の専門委員の方をお招きしてディスカッションをした。70年を振り返って今後どうするかということとはとても大きなテーマであって、中々方向性は定まらなかった。公民館が誕生したのは戦後の復興の最中であり、そこから高度経済成長という大改革を経て、その行き着いた先は少子高齢化という新しい局面にぶつかっているが、公民館はこういった激動の時代を潜り抜けてきた。そんな中で国としても社会教育の方向性を定めるのは難しいところであると感じたが、そのシンポジウムで共有できたこととしては、社会教育とは地方自治や住民参加の原則が中心にあるということ、それはいつの変動の時代でも変わることはないだろうということだった。このことを踏まえ大事だと感じることは、私達の住民目線で行政の課題をどう考えていくか、どのような方向性を選択していくかを私達自身が議論して積極的に提案していくことが、でき得る最善のことだと思う。社会教育委員はそれぞれの立場や活動があると思うが、その中から感じたことを率直に話して情報提供をしていただき、それを委員の中で共有し、少しでも所沢が良くなるにはどうしたら良いかを考えていければと思う。</p> <p>《以上で協議は終了した。》</p> <p>(3) その他</p> <p>事務局より、入間地区社会教育協議会(副会長、理事の紹介)について、入間地区社会教育委員研修会、全国社会教育研究大会千葉大会兼第47回関東甲信越静社会教育研究大会、成人のつどいについて、それぞれ連絡事項を伝えた。</p>

副議長	<p>《議事については以上で終了。議長に代わり、進行は事務局が務めた。》</p> <p>【6 事務連絡】</p> <p>関係各課より、事務連絡を行った。</p> <p>【7 閉会】</p> <p>今日はたくさんの説明があったが、で委員の皆様からたくさんのご意見を頂戴することができた。これから2年間、所沢市の社会教育発展のために充実した会議になるようご協力をお願いしたい。</p> <p style="text-align: right;">以上で終了</p>
-----	--